

世界遺産へ向けて その2

■白山文化研究会 平成24年度第1回例会 があります!! —テーマ:富士山・立山・白山の三禅定を考える—

日 時：平成24年7月8日(日)午後1時30分～3時
場 所：勝山市民会館 3階 第1会議室
講 師：富山県立山博物館 福江 充 (ふくえ みつる) 氏
演 題：「三禅定の時期的変遷—特に白山山麓の馬場の問題にも関連して—」

白山は、富士山と立山とともに「日本三名山(三霊山)」のひとつです。今回の研究会では、その歴史や信仰の実態にせまります。当日は、どなたでも参加できますので、皆様のご来場、お待ちしております(聴講無料)。

■平泉寺の世界遺産登録を支援する民間団体誕生!! —「(仮称)平泉寺世界遺産登録応援市民団体」の設立総会—

日 時：平成24年7月8日(日)午後3時15分～4時
★上の白山文化研究会平成24年度第1回例会終了後にあります
場 所：勝山市民会館 3階 第1会議室

平泉寺は、自然景観豊かで、歴史遺産の宝庫でもあります。
しかしながら、その遺産のすばらしさは子どもたちや若い人たちにはあまり知られていません。また、広大な平泉寺の維持管理はたいへんなことで、以前から景観をまもる取り組みをはじめたいと、この団体の準備会(代表 松本知子さん)では考えていました。

そこで、平泉寺の景観を守る清掃活動や、遺産に楽しくふれる活動をおこなって、地域の遺産を誇りに思う人たちを増やす取り組みをはじめたいと考え、このような会を設立することにしました。会の活動の先には、平泉寺の世界遺産登録もみすえています。

年会費は500円を予定しており、民間レベルでの自主的・積極的な活動を行いたいと考えています。会の趣旨に賛同いただける方を広く募集します!



「東尋坊」がみえた!か?

あの「東尋坊」がいたとされている屋敷跡近くで発掘調査を行いました。溝のような穴を掘って、むかし平泉寺でくらした人たちの生活の跡がないかを調べます。「東尋坊」はみえたのか?いかに!

今号の内容

発掘現場通信「ふるさと創造プロジェクト」関連の発掘調査
世界遺産へ向けて「白山国立公園、白山文化研究会など」のご案内

1～2ページ
3～4ページ

発掘現場通信

先月号でご紹介しました「勝山市ふるさと創造プロジェクト事業」に関連して、5月から6月に、まほろばや白山亭の近辺で発掘調査を行いました。まほろばの近くの調査地は、あの「東尋坊」がいた屋敷跡ではないかといわれているところです。

ところで、東尋坊というお坊さんについては、『朝倉始末記』という記録にでてきます。彼は「悪僧大強力」であったため、平泉寺のほかのお坊さんたちからきらわれていたそうです。

寿永元年(1182)4月5日(今年の大河ドラマの主人公平清盛がなくなった次の年ですね！)、海辺の断崖絶壁で宴会をした時、東尋坊は酒に酔わされ、海へつき落とされてしまいました。

発掘調査では、左の写真のように、家などの柱をたてるための地面に掘られた穴が見つかりました。また、1.5m以上の土盛りをするなど、大がかりな土木工事をしていることもわかりました。そして、西暦1100年から1200年ごろ(平安時代のおわりごろから鎌倉時代のはじめごろ)の土器もたくさんでてきました。これは、あの東尋坊がいたころのものです。もしかすると、かれが使ったもの??…なんて想像をふくらませてしまいました。

今、現地では、調査の記録をとったりしながら、成果をまとめているところです。もう少し時間がかかりますが、よろしくお願いします。



もしかして、東尋坊さんのものかなあ～



右の写真は、白山亭の裏の調査で見つかった石組みです。でてきた土器は500年ほど前のもので、戦国時代の石組みと考えています。



②

世界遺産へ向けて その1

■白山国立公園が広がりました!!

今年の5月7日、環境省は、勝山市北谷町小原区の約2200ヘクタールを白山国立公園に編入することを発表しました。白山国立公園といえば、平泉寺も白山神社境内などが入っています。今回新しく国立公園となった地域は、取立山、大長山、赤兎山、法恩寺山などに囲まれており、ブナの自然林やたいへん貴重なイヌワシ・クマタカなどの動物がくらしています。また、平泉寺から白山山頂をむすぶ「越前禅定道」も通っています。



禅定道は、世界遺産の大切な資産のひとつです(「平泉寺かわら版」の奇数月号で連載しています)。自然とともに、歴史も大切に守り伝えていきたいですね。

6月10日には、小原で赤兎山・大長山の開山式がありました(左写真)。今年は、白山国立公園指定50周年の記念すべき年でもあり、いろんなイベントが行われます。

■白山周辺の手織り機「^{じはた}地機」について考えました!!

—《ようこそ！ディープでホットな最前線》第1回はたや研究会—

6月17日、はたや記念館ゆめおーれ勝山で、春の企画展『発見！わが家のはた織りさん』(7月1日まで)のメインをかざる「地機」について、白山周辺の地域的な特色をさぐる研究会がありました。国立民族学博物館の東村純子さんからは、地機のルーツについて、福井県立歴史博物館の坂本育男さんと滋賀県立琵琶湖博物館の辻川智代さんからは、福井県や滋賀・岐阜などの地機を紹介していただきました。その中で、白山周辺の地機は大型であることなどの特色がうかびあがりました。

その後、滋賀県立琵琶湖博物館の中藤容子さんのコーディネートで、参加された市民の皆さんと、地機や織物についての思いや質問を話しあいました。



③